

アブラハム ⑤

□アブラハムの信仰の手本

1. 約束の地を与えるという神の召しに応答して、行先を知らずに、生まれ故郷を離れた
2. 約束の地に入っても、寄留者の立場を甘んじて受けて、忍耐し続けた
3. 子が生まれるという神の約束を、不可能でも信じた
4. 土地の約束と子の約束は、アブラハムに復活を確信させることになった。アブラハムは、約束の子イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明した
5. **目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた**

□本日の内容・・・5番目、目の前の土地ではなく、より優る国、神の都を求めた

- (1) ヘブル 11：8～10 信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。堅い基礎の上に立てられた都を持ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。
- (2) ヘブル 11：11～12 アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。こういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。
- (3) ヘブル 11：13～16 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。もし、彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会があったでしょう。しかし、実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。(補足 「故郷 パトリス」・・・直訳すると「父の地」)
- (4) まとめ：アブラハムが出て来た故郷「父の地」とは、地上の都ハランとウルです。アブラハムは、神が与えると約束した地に 75 歳で入り、175 歳で死ぬまで、他国人のようにして寄留し続けました。それができたのは、目の前の土地ではなく、天に神が用意しておられる神の都があることを信じ、それに憧れていたからです。

□天には、神が用意しておられる都がすでにある。その都について

(1) ガラテヤ 4：26 「上にあるエルサレム」

(2) ヘブル 12：22 「生ける神の都である天上のエルサレム」・・・そこには、誰がいるのか、何かあるのか？ ヘブル 12：22～24 によると、次のとおりである。

① 22 節 シオンの山

② 22 節 無数の御使いたちの喜びの集い

③ 23 節 天に登録されている長子たちの教会・・・初代教会のユダヤ人信者たちの教会。異邦人信者たちは、それに共に与かる者たちとして、この教会に入ってしまった。よって、ユダヤ人信者と異邦人信者から成る教会の聖徒たちは皆が、この都の住民となるであろう。

【補足】「天に登録されている」・・・ルカ 10：20 72 人の弟子たちの派遣のときのイエスのことば「悪霊たちがあなたがたに服従することを喜ぶのではなく、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」

④ 23 節 すべての人のさばき主である神（＝父なる神）

⑤ 23 節 完全な者とされた義人たちの霊

● 「完全な者とされた義人たちの霊」＝旧約時代の聖徒たち

● 「霊」・・・ヘブル人への手紙が書かれた時点では、復活の体を持つ信者はまだ誰もいない。よって、「霊」の状態である。

● 「完全な者とされた」・・・旧約時代の信者たちも、信仰によって義人とされ救いを受けたが、彼らが完全にされたのは、メシアの十字架での死によってである。

ヘブル 9：15 「キリストは、新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです」

⑥ 24 節 新しい契約の仲介者イエス

⑦ 24 節 アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血（ヘブル 9：11～12）

(3) 黙示録 21:2 「聖なる都、新しいエルサレム」・・・天の都は、神のみもと、すなわち第三の天から出て、新たに創造されたばかりの天の中を降り、新たに創造されたばかりの地の上に置かれる。

- ① 6節 いのちの水の泉
- ② 11節 神の栄光 その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のよう
- ③ 12～13節 大きな高い城壁 十二の門 東・北・南・西にそれぞれ3つの門
- ④ 14節 城壁には十二の土台石
- ⑤ 16節 都は正立方体、一辺が12,000スタディオン=2,220 km
- ⑥ 17節 城壁の高さは、144ペキス=64.8メートル（マンションビルなら16～21階建）・・・城壁として並はずれた高さであるが、正立方体形の都の高さは城壁の34,259倍。
- ⑦ 18節 城壁は碧玉
- ⑧ 18節 都は透き通ったガラスに似た純金
- ⑨ 19～20節 城壁の土台石12個は、宝石で飾られている。ひとつひとつの土台石に用いる宝石は、それぞれに決められていて、12個の土台石の色合いを個性的にしている。
- ⑩ 21節 城壁の十二の門は真珠、どの門もそれぞれが一つの真珠。
- ⑪ 21節 都の大通り（単数形）は純金で、透明なガラスのよう。

(4) 黙示録 22:1～2

- ① いのちの水の川
 - 水晶のように輝く
 - 神と子羊の御座から出て
 - 都の大通りの中央を流れる
- ② いのちの木（単数形）
 - いのちの木は、かつてエデンの園にあった。それが戻って来る
 - 一本の木が川の両岸にある？・・・木の幹が川の両岸に伸びている。今の私たちに想像ができない。
 - 「12の実をならせる」、「毎月一つの実を結ぶ」
 - 「月」という用語が使われていることから、新天新地、永遠の秩序においても、なんらかのカレンダーがあるものと推定される。
 - 「その木の葉は、諸国の民を癒やす」。癒やすと訳されている用語は、「健康によい」とか「リラックスさせる」という意味もある。永遠の秩序には病気は存在しない。

【参考資料】 黙示録 21：19～20 にある宝石について

| | 新改訳 2017 下段はギリシア語 | 新改訳旧版 | 一般呼称 | 色合い |
|----|----------------------|--------------|-------------------|-------------------------|
| 1 | 碧玉 イアスピス | 碧玉 | ジャスパー ブラッドストーン | 褐色 濃緑色 |
| 2 | サファイア サブフェイロス | サファイヤ | ラピス・ラズリ | るり色（青、金色の斑 点が点在する） |
| 3 | めのう カルケードーン | 玉髓 | カルセドニー | 淡い緑、ラベンダー色 |
| 4 | エメラルド スマラグトース | 緑玉 | エメラルド | エメラルドグリーン |
| 5 | 赤縞めのう サルディニユクス | 赤縞めのう | サードニクス | 赤と白 |
| 6 | 赤めのう サルディオオン | 赤めのう | サーディウス カーネリアン | 火の色、透明感のある 赤 |
| 7 | 貴かんらん石 クリュソリス | 貴かんらん石 | クリサライト ペリドット | 黄色・金色がかった緑 透明で黄金色の輝き |
| 8 | 緑柱石 ベーリュロス | 緑柱石 | ベリル アクアマリン | アクアグリーン 淡い青 |
| 9 | トパーズ トパジオン | 黄玉 | トパーズ | オレンジがかった黄色 |
| 10 | ひすい クリュソプラソス | 緑玉髓 | クリサプレイズ | 金色がかった緑 |
| 11 | 青玉 ヒュアキンソス | 青玉 ヒヤシンズ石 | ヒヤシンズ ブルージルコン | 青紫色 青色・半透明 |
| 12 | 紫水晶 アメシストース | 紫水晶 | アメジスト | 紫色 |

（注）No.2は、ギリシア語で「サブフェイロス」、黙示録が書かれた当時は、「るり」（ラピス・ラズリ）を指していたものと考えられる。後年、そのラテン文字つづりからきているのが「サファイア」、何らかの理由で、現在のサファイア（すなわち、赤色以外のコランダム）を指すようになったようである【新聖書辞典、いのちのことば社、P. 505 による】。コランダムとは、酸化アルミニウムの結晶から成る鉱物。和名は「鋼玉（こうぎょく）」。純粋な結晶は無色透明だが、不純物イオンにより色がつき、赤いものをルビー、赤以外（青など）をサファイアと呼び分ける。